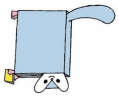
P☆PORO

ぴー☆ぽーろ



美幌町図書館だより
令和６年　５月　１日
第７３号

☏　０１５２－７３－３０１６
住所　美幌町字東１条北４丁目１５
（文責：図書館長）

初めまして

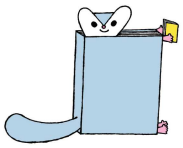
美幌町図書館長

４月より館長として着任いたしました菅済（すがわたる）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私自身図書館の利用は決して多い方ではなく、これまでは地方に出かけた際に街の顔としての公共施設はどのようなものか、少し時間が空いたので図書館にでも行ってみようか、そんな感じで図書館を見たり利用したりしてきました。施設の様子がわかりやすいのも重要ですが、図書館の一番の魅力は「心地よさ」、自分の時間をゆったりと過ごせることだと感じていました。その時々で興味や必要性のある書物を探し、くつろげるスペースで閲覧する時間が大好きです。

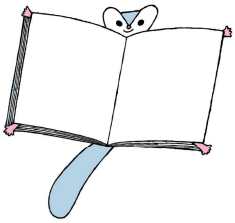
図書館で勤務するようになり、「図書館ってこんなに素敵なところなんだ」と、再確認する毎日です。仕事の合間に、ついつい書物に興味を持ち足が止まってしまうこともしばしば。こんな素敵なところで仕事ができることに幸せを感じているのですが、職務に慣れずにゆっくり書物を見ることができないジレンマに陥っています。

今年度は図書館を利用される皆様にとって「利用しやすく、魅力的な図書館」づくりを目指してまいります。町民の皆様、関係する皆様、頼もしい職員とみんなで知恵を出し合い、目標に近づけられるように努めてまいります。皆様の来館を心よりお待ちしています。



令和５年度図書館利用状況

来館者	４３，６３３人 （前年比　＋621）
開館日数	２７６日
一般の貸出冊数	６１,６３５冊
児童の貸出冊数	４８,０４７冊
合計貸出冊数	１０９,６８２冊 （前年比　-5,831）



昨年度は、一般の貸出は減りましたが、児童の貸出は増加しています。たくさん本を読んでいただけると嬉しいです。

５月の主な予定

4月23日～5月１２日（日）
絵本展示

９日（木）
絵本とあそぼ

１１日（土）
お楽しみ文学館

１６日（木）
おはなしのへや

２４日（金）
図書館ボランティアの日

２８日（火）～6月２日（日）
新聞の無償譲渡

休館日
３日、４日、５日、６日、１３日
２０日、２７日、３１日

吉田松陰を訪ねて

５月は大型連休もありますし樹木の花も咲き始め、行楽するには気持ちの良い時期です。たまには外にお出かけをして、気分をリフレッシュさせるのもいいかと思います。

今月のおすすめ本を吉田松陰の言葉を集めた本にしました。大河ドラマでも見たのですが、改めて本を読むと、よりくわしく松陰の激動を知ることができました。幕末に生きて活躍した人物はたくさんいますが、松陰もまちがいなく今の日本に影響を与えた１人です。

私事ですが、昨年家族で旅行をしようということになり、西日本を選択しその旅先の１つに松下村塾が保存されている山口県萩市に存在する松陰神社を選びました。保存されている塾舎は当時のままで平成２７年に世界遺産に登録されました。幕末の日本を動かしたと思うと、ここで勉強してたと思うと、いろいろな事が頭の中を駆け巡り、いつまでもここに居たいという思いに駆られました。こんなことがきっかけで初めて訪れた山口県でしたが、他にも素敵な場所がたくさんありましたので紹介したいと思います。

錦帯橋（きんたいきょう）・・岩国市錦川に架橋された５連の木造アーチ橋。見てよし、渡ってよし、橋の下からのぞくのもよし。とにかく素敵な景観でした。**秋芳洞**（あきよしどう）・・美祢市東部、秋吉台の地下１００から２００ｍにある鍾乳洞で、約１ｋｍの観光路をもって公開されている。鍾乳洞としては日本最大規模。規模の大きさやひんやりとした非日常の空間に圧倒されました。**元乃隅神社**（もとのすみじんじゃ）・・長門市にある神社。１２３基の朱色の鳥居が１００ｍ以上に渡り並んでいる。大鳥居の中央上部（高さ約５ｍ）に設置された、「日本一入れづらい」とも言われる賽銭箱がある。朱色の鳥居の景観は見事でした。**角島大橋**（つのしまおおはし）・・下関市豊北町神田と角島に架かる橋。海の青さとまっすぐに伸びる橋の景観が絶景です。もちろん山口県にもおいしい食べ物もたくさんありました。まだまだ知らない素敵なところがたくさんあることを実感した旅になりました。

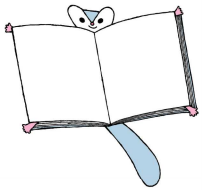
本文に関係する蔵書のタイトル

☆吉田松陰と松下村塾の志士100話
☆今、行きたい！日本の絶景大辞典１０００
☆驚きの日本一が「ふるさと」にあった　日本の絶景超完全版１１２０

等

お楽しみ文学館

○日　　時
　令和６年　６月　８日（土）
　１３：３０～　１２２分
○上映作品
　『 愛する人に伝える言葉 』
○監督：エマニュエル・ベルコ
○脚本：エマニュエル・ベルコ
　　マルシア・ロマノ
○出演：カトリーヌ・ドヌーヴ
　　ブノワ・マジメル



○作品について
フランスを代表する名女優カトリーヌ・ドヌーヴと、本作でセザール賞最優秀主演男優賞を受賞したブノワ・マジメルの共演によるこの物語は、がんを宣告された主人公とその母親が、限られた時間のなか「人生のデスク整理」をしながら、穏やかに死と対峙していく過程を感動的に描く。監督は、「太陽のめざめ」（１５）でカンヌ国際映画祭のオープニングを飾ったエマニュエル・ベルコ。脇を固めるのはセシル・ド・フランスそして主治医のエデ役には、実際にがん専門医であるガブリエル・サラが扮し話題となった。